気候情報

2004年７月の日本の天候

各地で大雨による被害，顕著な高温（東・西日本）

７月の天気概況

中旬には新潟，福井，福島県など北陸から東北にかけて梅雨末期の豪雨が発生して甚大な災害をもたらした．また，月末には台風第10号が日本の南海上を西進したあと四国西部に上陸して中国地方を縦断したため，西日本を中心に大荒れの天気となった．

東・西日本では月を通して高温が顕著であった．東日本太平洋側から西日本にかけての少雨も顕著であったが月末の台風第10号の影響で解消したところも多かった．北日本と南西諸島も太平洋高気圧に覆われやすかったが，北日本では中旬に寒気の影響があり，南西諸島では熱帯じょう乱の影響を受けて気温が平年を下回る時期があった．

上旬：東日本，西日本では高温・少雨・多照傾向が顕著だった．前半，台風第７号が沖縄地方に接近しながら北上し，その後温帯低気圧に変わって日本海を北東進したため，東・西日本では気温が高く経過した．後半は低気圧が日本海から北日本を通過したため，所々で雷を伴った降水があったが，低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだため，東・西日本では引き続き気温が高い状態が続いた．**旬平均気温**は，南西諸島で低かったほかは高かった．**旬降水量**は，北日本日本海側と南西諸島で多く，北日本太平洋側と西日本日本海側で平年並であったほかは少なかった．**旬日照時間**は，南西諸島で少なく，北日本日本海側で平年並であったほかは多かった．

中旬：北からの寒気が入りやすくなり梅雨前線が東日本日本海側から東北地方で活発化し，新潟，福井，福島県を中心に豪雨が発生して甚大な災害をもたらした．一方，東日本太平洋側から西日本にかけては太平洋高気圧に覆われたため，局地的な雷雨などは発生したものの高温・少雨・多照傾向が続いた．梅雨明けは中・四国・九州地方は７月11日頃，関東甲信・東海・近畿地方は７月13日頃で九州南部が平年並であったほかは平年より早かった（日付は暫定値）．**旬平均気温**は，北日本と南西諸島で平年並であったほかはかなり高かった．**旬降水量**は，北日本で多く，東日本日本海側で平年並であったほかは少なかった．**旬日照時間**は，北日本日本海側で少なく，北日本太平洋側と東日本日本海側で平年並であったほかは多かった．

下旬：梅雨前線の活動が次第に弱まったため，北陸，東北地方でも７月22日頃に梅雨明けした（日付は暫定値）．北日本は高気圧に覆われることが多くなり高温・少雨・多照傾向が顕著となった．東・西日本も太平洋高気圧に覆われやすく晴れて気温の高い日が続いたが，大気の状態がやや不安定で雷雨が発生した所があった．そして，月末には台風第10号が日本の南海上を西進したあと四国西部に上陸して中国地方を縦断したため，西日本を中心に大荒れの天気となった．**旬平均気温**は，南西諸島で平年並のほかは高かった．旬降水量は，北日本太平洋側と西日本日本海側で少なかったほかは平年並であった．**旬日照時間**は，東日本と西日本太平洋側で平年並であったほかは多かった．

７月の気候統計

平均気温：ほぼ全国的に平年を上回った．東・西日本では平年を2℃以上上回ったところが多く，関東地方の一部では平年を3℃以上上回った．横浜（神奈川），浜松（静岡）など６地点で７月の月平均気温の最高値を更新し，東京など８地点でタイ記録となった．

降水量：東北地方から北陸地方にかけてと北海道日本海側では平年を上回ったが，そのほかの地域では平年を下回った．特に関東地方から九州地方にかけては平年の40％以下のところが多く，岡山，日田（大分）など７地点で７月の月降水量の最小値を更新した．

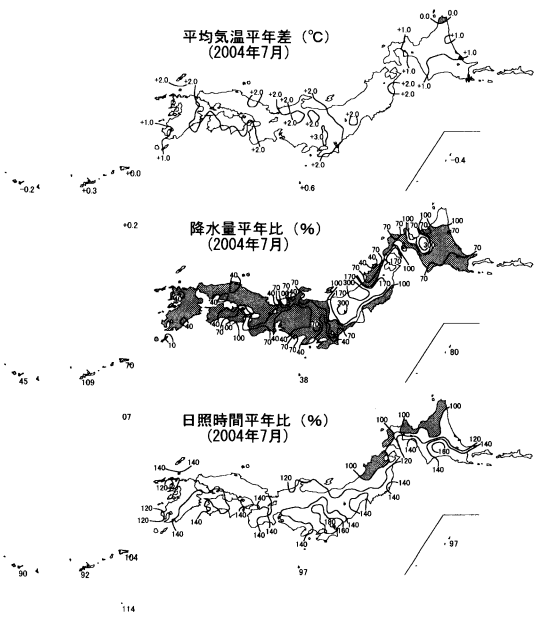
日照時間：北日本の日本海側と南西諸島の一部で平年を除いてほぼ全国的に平年を上回った．特に北海道から九州地方にかけての太平洋側では平年の140％以上となったところが多く，延岡（宮崎），宿毛（高知）では７月の月間日照時間の最大値を更新した．

（気象庁観測部統計室）

７月の記録（１位更新のみ）

- **月平均気温の高い方から**（℃）
  伊良湖　28.1　浜松　28.1　尾鷲　27.6
  横浜　27.5　大島　26.3　油津　28.6
  金沢　27.3　甲府　27.9
  など，計8地点タイ記録
- **月降水量の少ない方から**（mm）
  岡山　40.5　厳原　80.0　日田　36.0
  油津　32.0　種子島　18.5　宇和島　73.0
  清水　35.5
- **月間日照時間の多い方から**（時間）
  延岡　296.6　宿毛　279.8

2004年７月の平年差（比）図



注）陰影の部分は，平年より低い（少ない）地域を示す